

行歯会だより 第161号

(行歯会 = 全国行政歯科技術職連絡会)

令和3年4月号



1 行歯会第5期役員挨拶①

行歯会会長

奈良県福祉医療部医療政策局健康推進課

堀江 博

行歯会副会長

豊島区 池袋保健所 健康推進課

管理・事業グループ 芦田 慶子

愛知県 保健医療局 健康医務部 健康対策課

歯科・栄養グループ 小栗智江子

新潟県 新潟県福祉保健部 健康づくり支援課

清田 義和

2 歯科衛生士養成機関に勤務して

茨城歯科専門学校 石塚英子

3 NEW FACE

長崎市市民健康部健康づくり課(口腔保健支援センター)次長 古堅 麗子

東京都福祉保健局西多摩保健所企画調整課保健医療担当 赤城 裕理

4 都道府県世話役のつぶやき

大分県福祉保健部健康づくり支援課

課長補佐(総括) 兼国保医療課主幹 大津 孝彦

1 行歯会第5期役員挨拶①

会長挨拶

奈良県福祉医療部医療政策局健康推進課 堀江 博



○ はじめに

長会長、2期8年間の業務お疲れさまでした。会長を引き継がせていただき、奈良県の堀江です。就任にあたり会員の皆様にご挨拶申し上げます。

私は、平成12年度から奈良県庁に勤務しています。就職前は、母校大阪大学歯学部予防歯科で大学院生をしていました。昨年度、滋賀県で定年を迎えられた井下英二先生は、医局の大先輩です。研究では口腔内細菌を扱っていましたが、行政分野にも興味があったため、平成9年の東京での夏ゼミでデビューして以来、夏ゼミはほぼ毎年参加しています。平成17年に、奈良で夏ゼミ開催した際は、ゼミ長をさせていただきました。夏ゼミの関係で他県の関係者の方にも割と知られていたのでしょうか。行歯会は、発足当初から理事で関わらせていただいております。

○ 本会の状況について

本会は、平成17年の初代石上会長の発足時から16年経過し、17年目を迎えています。会員数は、賛助会員22名含め、790名（令和2年度）に増えました。国立保健医療科学院が事務局となり、これだけの会が現在に至るまで会費無料で運営されていることは、特筆すべき事であり、科学院に感謝すべきことだととらえています。

現在新型コロナの影響で日常生活が大きな影響を受けていますが、在宅勤務に係るICT環境が発展し、本会理事会もZoomを使用したリモートで開催することが可能になったことで、東京地区の会員を中心とした会務運営が緩和できる見込みとなり、その点ではいい意味での変化が生じている状況にあるととらえています。

○ 行政歯科技術職員の立ち位置について

歯科職は、行政組織の中でかなりの少数派です。歯科口腔保健推進法制定前は、行政に歯科職を配置する法的根拠も乏しかったですが、現在は、歯科口腔保健推進の学際的なエビデンスも増え、歯科口腔保健推進法も制定され、法的根拠も充実しました。しかし、少数派であることに変わりありません。歯科職を採用していない市町村も未だ数多く存在します。私は、職場に「特殊部隊枠」で採用されているような印象を持っています。

○ 世界最高水準の歯科保健を目指して

この言葉のルーツをたどると、行歯会だより第15号（2006年9月号）の日本歯科医師会の池主先生の寄稿に遡ります。崇高な理念で、本当に実現できるのかと、思わずたじろいってしまうようなテーマですが、実務レベルで考えてみれば、各会員が各地域で歯科口腔保健推進の最善手（施策）を打ち続けることを積み重ねていけば、自ずと達成されるようにも思います。

地域歯科口腔保健については、推進のステークホルダーが多岐にわたる（首長（選挙あり）、会員所属行政の職員（異動あり）、会員の地域の歯科医師会&歯科衛生士会（役員改選あり）、教育委員会、学校、PTA、医師会、福祉施設団体、住民団体、NPO等）ため、携わる者が地域をよく知った上で、歯科専門職としての立ち居振る舞いができないと、その最善手（施策）が打てないように思います。また、本会会員は世界最高水準の歯科保健の提供のため、各地域で歯科口腔保健推進の最善手（施策）を打ち続ける責任があるとも思います。

○ 行政歯科技術職員の特殊性について

前述で「特殊部隊枠」と例えましたが、会員の多くは、所属における一人職種であるにとらえています。事務方のようなダイナミックな異動に乏しく、ルーチン業務で年数を重ね、決まったことしか処理できなくなる傾向にあるのではないかと考えています。それはその職員の資質の問題ではなく、行政組織の構造的な問題です。私も採用されて20年以上経ちますが、ずっと本庁配置で異動らしい異動を経験したことはありません。

また、一人職種だとすれば、所属の「歯」に関する案件全てに何らかの形で関わることになるでしょう。「歯」に関する業務は、母子歯科保健、学校歯科保健、成人歯科保健、高齢者歯科保健、障害者歯科保健、災害時対応、医科歯科連携、歯科衛生士養成所など、多岐にわたります。案件が自分が今まで処理してきた業務の範疇に収まっていれば安泰ですが、少し外れたような内容だとしても、一人職種の宿命で得意不得意関係なく対応を求められることもあるでしょう。自分で解決できなければ、所属に助けてくれる人はいないので、解決手段を外に求める必要があるのではないのでしょうか。

○ 「集合知」としての行歯会の存在意義について

本会会員は、行政組織に所属する歯科技術職員で構成されていますが、所属は、県庁、保健所、市町村、歯科衛生士養成機関、教育委員会等さまざまです。各会員の担当業務も名簿を見れば、母子担当、成人担当、高齢（介護）担当、総合調整、学生教育等さまざまで、バリエーションに富んでいます。歯科医師の会員についても、私が行政に採用された当時は、昔は小児のう蝕が大きな課題であったので小児歯科出身や私のような予防歯科出身が大半でしたが、私より若い世代では、歯

科口腔外科出身や障害者歯科出身といった歯科医師も加入しており、さらなる多様性を獲得した組織になっています。また、賛助会員として大学等、行政以外の関係所属からも参画をいただいているところでもあります。

これらのことから、約 800 人の会員の経験や見識を一か所に集約できる行歯会という場は非常に価値があり、その経験や見識は、いわば「集合知」ともいえるものでもあると思います。

本会会員は、この「集合知」へのアクセス権限を持つエンドユーザーであり、それと同時に「集合知」を構成するパーツの一つでもあるのです。

○ おわりに

会員の皆様、もし不得意分野の案件にぶつかって、自分で調べたり考えたりして解決できなかったらメーリングリストに相談をしましょう。そしてメーリングリストに寄せられた相談内容が自分の範疇なら支援の投稿をしましょう。解決できないことにぶつかるのはお互い様で、資質の問題ではありません。

先代の長会長の下では、「市区町村歯科衛生士 新任期人材育成ガイドライン」の発行、小規模自治体限定の Zoom による集いが開催されるなど、従来のメーリングリストや行歯会だより発行以外の活動も行われました。今期においても、会員のニーズに応えられるような取組や従来からあるメーリングリストの管理等により、会員の役に立つ行歯会を維持できるよう、他の役員の皆様の助けを大いに受けながら務めて参りたいと思っています。これから 4 年の任期の間、会員の皆様におかれましてもご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

副会長挨拶

豊島区 池袋保健所 健康推進課
管理・事業グループ 芦田 慶子

行歯会第 5 期執行部で副会長を務めさせていただきます、豊島区池袋保健所の歯科衛生士の芦田と申します。第 4 期長執行部では事務担当理事を 4 年間務めさせていただき、勉強させていただきました。この度、副会長を拝命し、重責に押しつぶされそうではありますが、堀江会長の下、4 年間精いっぱい務めさせていただければと思っております。

行歯会第 4 期事務担当理事の 4 年間は、「市区町村歯科衛生士新任期人材育成ガイドライン」に携わらせていただきまし



た。豊島区は常勤歯科衛生士1名、長崎健康相談所（豊島区の保健センター）に会計年度任用職員の歯科衛生士1名、計2名体制という東京都23区の中でも大変厳しい人員体制で歯科保健を担っており、日々悩みながら仕事をしています。その中で、この人材育成ガイドラインに携わるうちに、自分が今まで行ってきた仕事は、大筋では間違っていなかった、これが足りなかったという再確認ができました。

そして、「なんでもできる行政マンを目指そう！」という言葉を行歯会で教えていただいたことで、歯科専門職だからと歯科のことだけではなく、何でもできるように積極的に他部署との連携に動き、橋渡しを心掛けてきたところ、令和3年度に会計年度任用職員を2名、他部署ですが増やしていただくことができました。（もちろん、私の力だけではありません…。）

このように、今まで行歯会で教えていただいた事を、私の微々たる力ではありますが、何か恩返しができるばと思っております。4年間、どうぞよろしくお願いいたします。

副会長挨拶

愛知県 保健医療局 健康医務部 健康対策課
歯科・栄養グループ 小栗智江子

愛知県庁（健康対策課・口腔保健支援センター）歯科衛生士の小栗です。平会員から世話役もせず突然副会長にしゃしゃり出てしまい、今さらながら大変恐縮しております。今期この大役に臨もうとした理由は、愛知県が行政歯科衛生士の世代交代に直面しているためです。



県内には約80名の歯科衛生士がおり、その3割以上が採用5年以内の新任期にあたります。人材育成ガイドラインの作成、キャリアラダーに沿った研修体系の構築、調査研究の実践など、皆で力を合わせて手探りで進めているところです。新人さんたちのキラキラした瞳を見ると、忙しくても張り切ってしまう（笑）。

多くの自治体でも同様に世代交代の波がやってくるでしょう。私たち行政歯科職が、「職場ではひとりでも孤独ではない」と思える環境をつくるのが「行歯会の役割」だと思います。大先輩の高澤さんをはじめ、歴代の役員の皆様から想いのこもったタスキを受け取りましたので、全国の皆様とつながり、次世代に引き継げるように楽しみながら努めてまいります。任期の4年間、どうぞよろしくお願いいたします。

副会長挨拶

新潟県福祉保健部 健康づくり支援課

清田 義和

第5期執行部で副会長を務めさせていただきます、新潟県の清田です。

私は、長会長のもと、ブロック理事を1期4年務めていました。この間、年1回程度でしたが理事懇談会に出席するため上京し、役員の方々と出会うことができました。また、会員の皆さんが集う「夏ゼミ」に初めて参加してみました。相当の出不精の私ですが、そこでも全国各地の会員と出会い、多くの情報と勇気を頂きました。

会員の皆さんにとっても、行歯会を通じて少しでも出会いが増えれば良いなと思っています。直接顔を合わせることが理想ですが、幸い、コロナ禍でオンライン環境が整備され、画面を通じて出会うこともできます。昨年度から、「小さな・・・zoom ミーティング」の行歯会企画も始まりました。メールを見るだけでなく、ちょっとでもいいので、無理しない程度に参加してほしいなと思います。そうした出会いが重なり、コミュニケーションが深まっていくことを期待しています。

最後に、今は大役を引き受け、身の引き締まる思いです。私を推薦してくださった前執行部の皆さんと静岡の中村さんの期待に沿えるようがんばります！

微力ですが、4年間務めさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。



2 歯科衛生士養成機関に勤務して

茨城歯科専門学校

石塚 英子

1 はじめに

行歯会の皆様には日頃から貴重な情報をいただきありがとうございます。私は長い間会員として、現在は賛助会員として参加させていただいております。

行政機関（茨城県）退職後の平成30年4月より縁がありまして茨城歯科専門学校に勤務しております。



この度、栃木県の中山氏から原稿を書いてみませんかとお誘いをいただきましたので、非常勤勤務ではありますが、3年目になりましたので本校の様子などを紹介させていただければと思います。

本校は、歯科技工士と歯科衛生士の養成課程を持つ専門学校です。令和2年3月までに歯科衛生士科2,244人、歯科技工士科1,102人の卒業生を送り出しています。

歯科衛生士科は、1年生から3年生まで150人が学んでいます。歯科衛生士の養成教育は「歯科衛生士学」ととらえ、3年間に基礎分野、専門分野において3年間に65教科の単位修得、臨地実習(臨床・臨地)900時間を修得していきます。

2 養成機関に勤務しての所感

行政機関での勤務が長かったため本校に勤務して養成内容の中に改めてなるほどと感じたことがあります。

1つは、専門分野の歯科保健指導論の内容です。歯科保健指導論は最も授業数の多い教科になっており、口腔の基礎知識やう蝕予防の基礎知識を中心に歯科衛生士として様々な場面で効果的な保健指導を行うための教科です。その内容に食生活・栄養に係る項目が大変多くなり充実していることです。「食生活指導のための基礎知識」「ライフステージごとの栄養」など厚みが増されており、なんと教科書のページ数で見ると全体の約2割を占めていることがわかりました。

加えて、歯科予防処置論、歯科保健指導論に「歯科衛生士過程」の考え方に基づいた内容が盛り込まれていることです。対象者のニーズや科学的な根拠に基づいて対応できるように問題解決能力を高めること、クリティカルシンキングを身につけることを目的とした教育、トレーニングを学生は受けることになっています。

人々の生涯に渡っての健康的な生活を歯科口腔保健の側面から支援をする関係職種の一員として多職種と連携しながら歯科衛生士が担っていくことという考えが養成機関においても反映されていることをしみじみと感じています。歯科予防処置論、歯科保健指導論、診療補助論は講義、および学内実習は6人の専任教員が担当しています。

また、臨地実習の一つとして市町村のご協力をいただきながら(忙しい業務の中での学生受け入れの労力はよく理解しております)母子歯科保健指導の位置づけで実習をさせていただいています。座学ではとらえきれない第一線の地域住民を対象とした事業の展開を学ばせていただく貴重な機会となっていることを再認識しています。

3 コロナ禍の変化

令和2年度の学校での生活は、本校においても様々な変化が余儀なくされました。

入学式が終わった直後から、学生は登校ができなくなったため、教務は課題学習の課題作成、遠隔授業の準備と実施、時間割の組み替えと教科担当講師への連絡等に追われました。

2年生、3年生については、外部施設での実習が中止になり、学内演習の準備と実施、課題学習や遠隔授業の評価作業も加わりました。

今まで遠隔授業の経験のない中で、基本的には既存のOA機器を活用しての取り組みでしたので苦労はありましたが、専任教員の努力とアイデアとによって遠隔授業、分散登校による対面授業を組み合わせながらカリキュラムを進めています。密対策のため2つの教室に分散しての同時授業も行い、必要とされる講義等の内容は網羅することができています。

4 おわりに

行政機関と養成機関での相違点は、関係学会が全国歯科衛生士教育学会に変わり、関係機関に全国歯科衛生士教育協議会が加わり、これまでは歯科専門職としては単独勤務から今は複数配置されている職場である点などがあります。

しかし、目指すところは人々の豊かな人生に歯科保健医療の側面から関わっていくことのできる人材の養成ですので、大きな目標は行政と同じです。今の職場で少しでも若い人の力になれるようにと考えています。

早く、コロナが収束して予定されていることが予定通りに行える環境になることを願わずにはられません。

今後も行歯会の情報に頼らせていただきたいと思いますので引き続きよろしく願いいたします。

3 NEW FACE

長崎市民健康部健康づくり課(口腔保健支援センター)次長

古堅 麗子



1 はじめに

令和2年4月より長崎市に勤務している古堅(ふるげん)と申します。この度、国立保健医療科学院の福田英輝氏からのご推薦で執筆の機会をいただきました。

卒後、大学の口腔保健学(旧予防歯科)に勤務し、大学では、免疫応答への興味からがんワクチンにはじまり、その後歯周病の免疫応答を解析していました。医学部と合同での五島健診では

歯周病と全身疾患に関わる指標との関連について研究を進めることができ、多くの方に支えられたことに感謝しています。今後は市民の方の健康長寿を口腔の分野から支えるべく奮闘しているところです。

2 長崎市の状況

長崎市は現在人口約41万で減少傾向にあり、高齢者率は30%に達しています。歯科担当者は、健康づくり課の中の口腔保健支援センターに歯科医師1名、歯科衛生士3名が勤務しています。長崎市歯科口腔保健推進計画では、「誰もがおいしく食べ、楽しく話し、明るく笑える人生を送る」ことを目標に包括的にすすめており、特に乳幼児期では、産科での妊産婦歯科保健指導や委託歯科医院での1回無料健診の実施により、幼児期からの定期的な歯科受診が増加し、う蝕に関する目標値は達成しつつあります。今後は、親子での歯科受診勧奨や成人へのフッ化物配合歯磨剤の利用法、若年層の歯科健診受診、高齢者への口腔機能維持について、効果的な周知を図りつつ、すすめていくつもりです。

3 コロナ禍の影響

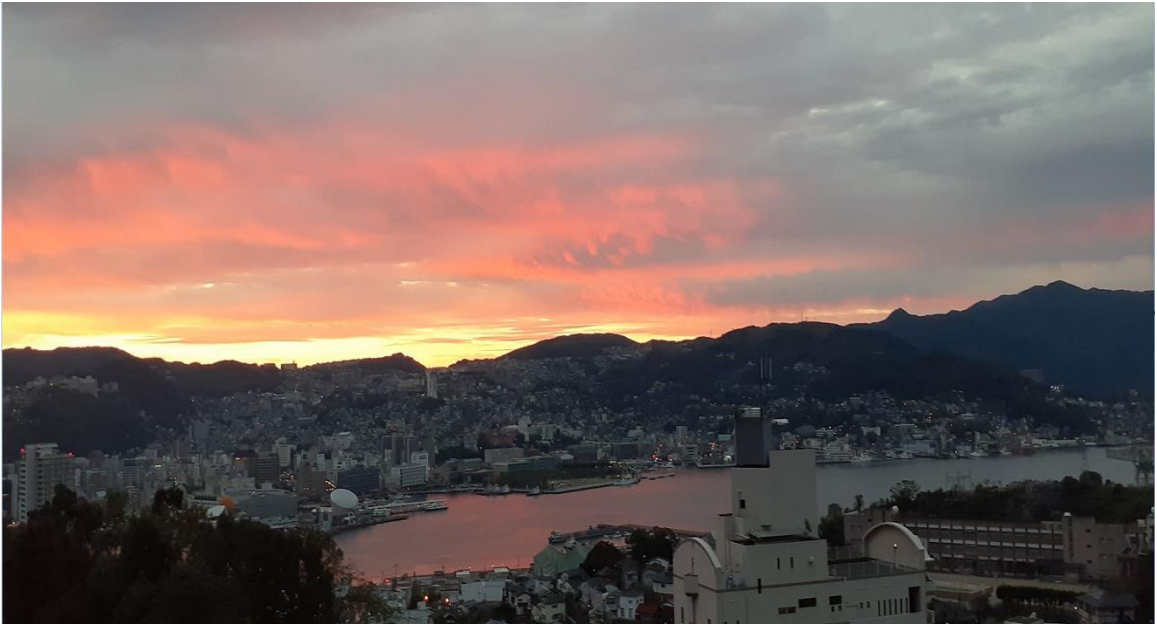
今年度、新型コロナウイルス感染症の影響により集団歯科検診を見送り、他プログラムによる保健指導にしつつ継続できたことは、実施できる方策を工夫するいい機会だったと前向きに捉えています。ただフッ化物洗口については、県からの補助によりようやく平成29年度に全小学校での実施となり、今年度は中学校での実施をすすめていたところでしたので、かなりの逆風となりました。洗口液を吐き出す際の目に見えない飛沫（エアロゾル）についての質問等に、科学的に答えることが難しく、特殊撮影システム等での結果などありましたら、この場を借りてお願いしたいと思っています。効果がみえてきた中での焦る気持ちを抑え、教育現場での負担を考慮しつつ、実施する環境を整えるようサポートしています。

4 今後について

終わりの見えない新型コロナ対策については、自治体の対応の差があらわれやすいため、正しい情報を見極めつつ科学的根拠がないネットニュースについても、市民の方からの質問を想定して情報収集しています。今まで当たり前にも思っていることでも、地域で生活している人の視点にたち、歯科の分野からできることは何かを改めて考えていく必要性を感じています。行政での仕事の手法にまだまだ不慣れですが、食や禁煙、運動など関連する他職種の皆様と、新たに連携した仕事ができるよう、準備をすすめていくつもりです。

行歯会の皆様からの情報は、いつも参考にさせていただいている上に、パワーまでいただいている有難く思っております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

写真は今年開港 450 周年を迎える長崎港の朝焼けと夜景です。（夜景にはハートマークがあります）



東京都福祉保健局西多摩保健所企画調整課保健医療担当

赤城 裕理



1 はじめに

行歯会の皆様、いつも貴重な情報を御提供いただき誠にありがとうございます。

また、今回 NEW FACE を執筆させていただく機会をいただき、ありがとうございます。

拙稿ではございますが、新任期歯科行政職としての日々について御紹介させていただければと思います。

2 自己紹介

私は東京都の出身で、大学卒業後、開業医、都立病院で勤務した後、令和元年度より現在の東京都西多摩保健所にて勤務しております。

臨床で奮闘していた日々からデスクワークが基本の保健所勤務になった際にはそのギャップに慣れるまでとても時間がかかりました。都保健所では歯科衛生士が各所1人配置のため、はじめは右も左も分からず苦労しましたが、諸先輩方に日々御指導いただきながら勤務しております。

3 西多摩圏域について

西多摩保健所は、東京都の最西部の8市町村（青梅市、福生市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町、檜原村、奥多摩町）を管轄する、都道府県型保健所です。管轄する西多摩圏域は、人口383,365人（令和2年1月1日）、面積は572.70㎢に及び、東京都全体の約26%を占めています。西多摩地域は、奥多摩の山々や御岳山、秋川渓谷など豊かな自然が息づいており、観光資源としてのポテンシャルが高く、都内でキャンプなどレジャーを楽しむのに最適な場所として注目されています。

4 担当職務について

私の所属する企画調整課保健医療担当は、歯科保健担当課長（歯科医師）（令和3年3月現在）のもと、薬剤師1名（歩く辞書のような方で、経験値と知識量に日々敬服しています。）、保健師1名（経験豊富で心配事を相談するといつも解決に導いてくださる方です。）、事務職2名（スーパー係長お二人です。いつも迷惑ばかりかけていますが、心から尊敬しているお二人です。）の人員構成となっており、地域医療システム化の推進、診療所

等の届出・監視指導、医療安全支援センター事業、医療従事者の免許等に関する受付、そして私が主担当でもある地域歯科保健医療対策の推進等の業務を担っています。

東京都の保健所歯科保健事業は障害者等歯科保健推進対策事業と歯科保健普及対策事業の2本立てで構成されており、それぞれの圏域の事情に合わせた様々な事業を展開しています。

高齢化率が29.4%（令和2年1月1日）と高い西多摩圏域では高齢期歯科保健医療対策を重点プランとし、高齢期における口腔機能支援事業等の充実を指標に取り組んでいます。

重点プランにおける具体的な取組としては、学識経験者（本会賛助会員の大島克郎先生）、三師会及び公立病院歯科医師等を委員とする西多摩地域歯科保健推進検討会を年1回開催し、高齢期を含めた歯科保健医療対策を推進するための検討を行っています。

また、市町村・障害者施設・高齢者施設の職員等を対象に、摂食嚥下機能支援に関する正しい知識の普及啓発と人材育成を目的に、研修会や事例検討会を開催しています。

業務経験が浅く、事業の実施ばかりに精一杯になってしまうこともありますが、圏域ならではの事業の実施に繋がられるよう努めていきたいと思っています。

5 歯科行政職としてのこれから

以前、私の尊敬する先生が「歯科医師免許は運転免許のようなもの。必要な時に使えればいい。」と仰っていたことがありました。その真意とは、歯科医師という免許は持っているけれど、それ以前に行政職として物事を捉え、処理していく能力が必要であり、処理していく過程で歯科の知識、思考、技術が必要ならばそこは専門職としてアウトプットできることが歯科行政職として重要である、ということなのではないかと理解しました。

しかし、いざ専門職として知識をアウトプットする機会があったとしても情報が過去のものでは役立ちません。行政職としての基本を身に付けつつ、専門職としての自覚を持ち、自分の歯科に関する知識のアップデートを日々続けていくことも重要であると考えています。

これからも、行歯会等で皆様が御提供くださる情報を通して歯科の見識をより深めさせていただきながら、日々の業務に邁進していきたいと思えます。

今後とも御指導のほどどうぞよろしくお願いいたします。

4 都道府県世話役のつぶやき

大分県福祉保健部健康づくり支援課課長補佐（総括）兼国保医療課主幹

大津 孝彦

世話役のつぶやき

突然ですが、私、大分県別府市出身です。別府と云えば「おんせん県おおいた」の中心となる市。子どもの頃から自宅に温泉があるのが当たり前の世界で育ってきました。



夏などは湯温が上がりすぎ熱くて入れないときもあれば、湯垢（私んちは含鉄泉、お湯が赤い）が多すぎて何度も掃除が必要であったり、石けんの泡が立たなかったり等、当たり前の温泉にはあまりいい思い出がありませんでした。

ところが、年を重ねていくにつれ、また、温泉のない生活が長くなるにつれ、たまに入る温泉もいいと思ってくるようになってまいりました。（竹田市の長湯温泉（二酸化炭素泉・ほぼ透明）がいい。）

年を重ねると言いますと、近頃の急速なIT化には、なかなかついていけておりません。課員の超過勤務命令、実績の報告、パソコンの終了時間と乖離がある場合はその理由。事務事業評価に能力評価。プロジェクトごとに共有スペースでのディスカッション（文字だと細かいニュアンスが伝わらない）。Zoomでの研修会の開催（反応がつかめず、今ひとつやりきった感がない）。県庁内にDX推進課ができる（DXといえばデラックス？）。それでも昔は大学の講義が休講になると秋葉原にマイコンを求め通っていたのに・・・（NEC-PC8000、Sharp-MZ80、Apple IIにどきどきしたものです）。

行歯会の県世話役も発足以来続けてきたので、そろそろ、私を含め大分県で2名しかいない常勤の歯科技術職員（R3.3現在）の一人である杵築市の青木氏に今年度から世話役を代わってもらおうかなと思っているこの頃です。

大分県の最近のトピックス

最近の大分県のトピックスというと、乗り物好きな私としては「大分空港」がアジアで初めて「宇宙港」と認定され、2022年にロケットを積んだジャンボジェットが打ち上げられる（離陸する）予定であること、また2023年以降になります。大分市内から大分空港まで再びホバークラフトの定期便が運行されることがあげられます。「宇宙港」では多くのエンジニア、関係者等が別府に滞在することも想定されていますので、コロナ禍であっても星野リゾートをはじめ高級ホテル

の建設が次々と始まっています。今後は「宇宙県おおいた」で売り出そうと言う声も聞こえてきます。



出典：大分県庁 HP より

さて、歯科関係のことも少し。

大分県では、コロナ禍で中止している所も多くありますが、現在、全ての公立小学校でフッ化物洗口が行われるようになっていきます。これは県教育庁が業務として位置づけ、指導していただいたおかげですが、現場の学校の先生方も大変お忙しいため、放課後等、児童生徒が参加しづらい時間帯で行われている所もあり、人数が思ったほど伸びていません。大分県、12歳児一人平均むし歯本数が常にワースト3位以内に入っており、しばらくの間は抜け出しそうにありませんが、その効果が県内の先生や父兄にも認められ、むし歯本数の減少に繋がればと思っております。

また、九州内でも県・政令市歯科保健主管課長会議を開催しており、今年度は大分県が当番となっています。令和3年10月15日（金）に予定していますが、できたら一堂に会して行いたいと思っておりますので関係の皆様、よろしく願いいたします。（昨年は残念ながら書面開催なので開催県の熊本には行けませんでした。また、今年11月、宮崎県で開催される全国歯科保健大会は是非とも参加したいものです。）

♪ 編集後記 ♪

ここに来て豚熱（CSF）が発生し、急遽動員され、どうなることかと思いましたが、無事に今月号で編集担当を引き継ぐことになりました。今まで御協力いただきました関係各位にこの場をお借りして深謝申し上げます。（N）

Nさん、長期にわたり、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。みなさま、いよいよ編集のバトンを引き継ぐこととなりました。不手際満載だと思っておりますが、精一杯頑張りますので、応援くださいますようお願い申し上げます。（K）

「歯っとサイト」掲載コンテンツ募集！

「歯っとサイト（歯科口腔保健の情報提供サイト）」

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html> では、

掲載コンテンツを募集しています。

掲載を希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている窓口宛にご連絡ください。